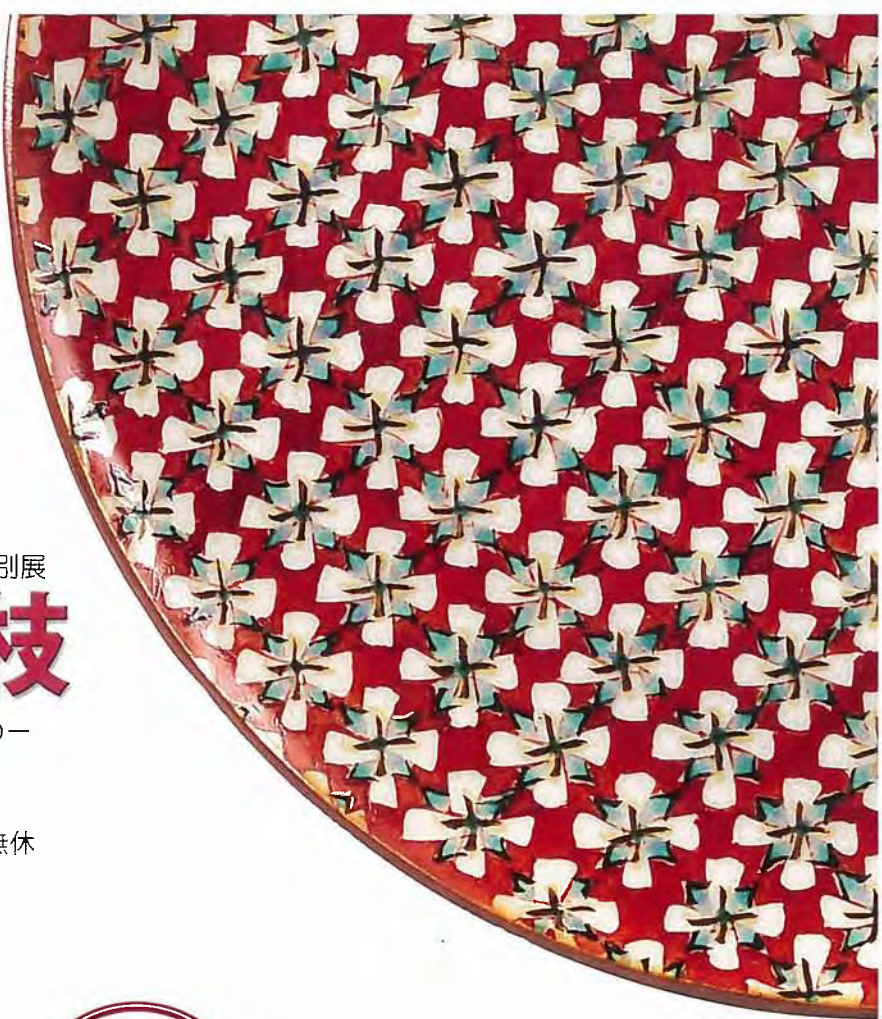




芸術文化振興基金助成事業



写真右より 富本憲吉、
長女 陽、次女 陶、
長男 壮吉、一枝夫人
富本家提供



富本 憲吉と一枝

富山市陶芸館開館30周年記念特別展

—暮らしに役立つ美しいもの—

2011年**9/23**(金・祝)~**11/3**(木・祝) 会期中無休

富山市陶芸館(富山市民俗民芸村内)

富山市安養坊50 Tel(076)433-8610

開館時間 午前9時~午後5時(入館は4時30分まで)

観覧料 一般100円(80円)、小人50円(40円)

()内は20名以上の団体料金
土・日・祝日の児童生徒の観覧は無料

主催 富山市教育委員会

後援 北日本新聞社、 富山放送局



同時開催

連携企画展「尾竹三兄弟の足跡」

富山市売薬資料館(富山市民俗民芸村内)

9月14日[水]~11月13日[日]

富本憲吉作
色絵赤更紗模様の皿(部分)
1941年
大阪市立美術館蔵

Our Home.

1916.

KAZ.



●人間国宝の陶芸家と富山ゆかりの夫人(売薬版画絵師 尾竹越堂長女)が求めた暮らしの美

富本一枝作 絵葉書「Our Home」(部分)
1916年 富本憲吉記念館蔵

富本憲吉(1886-1963)は、奈良県安堵村^{あんど}に生まれ、東京美術学校で建築図案を学んだ後、イギリスへ留学し、ウィリアム・モリスの工芸・デザイン思想に関心をもちました。帰国後、日本に滞在していたバーナード・リーチと出会い、陶器制作を始めます。作家の個性を重視する近代的な陶芸を目指した富本は、白磁、染付、色絵金銀彩などの多彩な技術を駆使し、格調高い作品を創り出しました。また一方で、安価で美しい日常のうつわも数多く制作し続けました。1955年には第1回重要無形文化財技術保持者(人間国宝)に認定され、1961年には文化勲章も受章しています。

妻の一枝(1893-1966)は富山市出身で、売薬版画の絵師尾竹越堂(国一)の長女です。女子美術学校で日本画を学び、その後雑誌「青鞥」^{せいとう}の編集部員として表紙画の制作や執筆に関りました。富本との結婚は、一枝が創刊した雑誌「番紅花」^{さくらん}の表紙画を頼んだことがきっかけでした。一枝は結婚後も「婦人公論」などに随筆や評論を執筆、戦後は「暮らしの手帖」に長期にわたり童話を連載し好評を博しました。一枝の審美眼は、憲吉の創作活動に深い影響を与えたといわれます。

本展は、民陶を収集・展示する富山市陶芸館の開館30周年を記念し、富本家を始め、富本憲吉記念館、大阪市立美術館のご協力により、人間国宝の陶芸家 富本憲吉と富山にゆかりのある一枝夫人の個性あふれる創作活動と、二人が大切にしたい暮らしの美の一端を紹介いたします。



富本憲吉作
染付 老樹模様陶板(安堵村高塚の景)
1920年 富本憲吉記念館蔵



富本憲吉作
白磁 壺
1934年 大阪市立美術館蔵



富本憲吉作
色絵染付 薊模様皿
1936年 大阪市立美術館蔵



富本憲吉作
子供に与えたミニチュア陶器
1920年代 富本憲吉記念館蔵



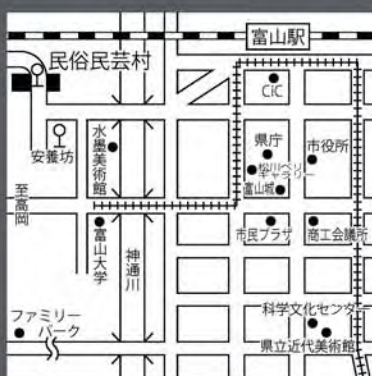
夫婦合作
羊歯模様半襟
1914年 富本憲吉記念館蔵



夫婦合作 陶器絵巻
1918年 富本憲吉記念館蔵



富本憲吉、尾竹一枝合作
『番紅花』3号表紙
1914年 富本憲吉記念館蔵



■交通案内

車 / JR富山駅から約10分、富山ICから約20分
駐車場無料
バス / 地鉄バス富山駅前④のりばから
呉羽山老人センター行き富山市民俗民芸村下車すぐ
または新桜谷町行き安養坊下車 徒歩5分
※富山ミュージアムバスもご利用いただけます。
(日付印のある専用パンフレット必要)
富山駅前CICビル横から発車(無料)
10:00~16:00毎時30分発(1日7便)

富山市陶芸館(富山市民俗民芸村内)
富山市安養坊50番地 Tel 076-433-8610

同時期、富山市民俗民芸村内の売薬資料館では、富本一枝の父、尾竹越堂(国一)やその兄弟(竹坡、国観)が描いた富山売薬版画を中心に、尾竹兄弟の足跡をたどる連携企画展「尾竹三兄弟の足跡」を開催します。
9月14日(水)~11月13日(日)
●お問合せ
富山市売薬資料館
Tel 076-433-2866